

令和4年度

事業報告

社会福祉法人 長い坂の会

I	法人総括	3
II	高齢者福祉事業	
	[1] やすらぎの家 関連事業	
	1 特別養護老人ホームやすらぎの家	6
	2 短期入所生活介護やすらぎの家	13
	3 グループホームほのぼのの家	14
	[2] うららか春陽荘 関連事業	
	1 特別養護老人ホームうららか春陽荘	17
	2 短期入所生活介護うららか春陽荘(ショートステイ)	19
	3 デイサービスセンターはるかぜ	20
	4 デイサービスセンターそよかぜ(認知症対応型)	21
	5 居宅介護支援事業所はるの	22
	6 高齢者住宅等安心確保事業 横浜ニュータウン	23
	7 うららかキッズガーデン(事業所内小規模保育施設)	23
	8 春陽荘各種委員会活動報告	25
	[3] 在宅介護センターわかくさ 関連事業	
	1 デイサービスセンターくつろぎの家	29
	2 デイサービスセンターわかくさの家(認知症対応型)	31
	3 小規模多機能型居宅介護わかくさ	32
	4 くつろぎの家 訪問入浴サービス	35
	5 高知市在宅介護支援センターあさくら	36
	6 高知市朝倉地域包括支援センター	38
	7 生活援助員派遣事業 若草	39
III	児童福祉事業	
	[1] うららか保育園 関連事業	
	1 うららか保育園	41
	2 特別保育事業	44
	3 放課後児童クラブ	46
	4 職員研修参加状況	46
IV	介護福祉士養成事業(公益事業)	
	[1] 平成福祉専門学校 関連事業	
	1 平成福祉専門学校	49
	2 平成福祉専門学校 介護実務者研修	50
	3 平成福祉専門学校 初任者研修(高校生就職支援事業)	50

I 法人総括

令和2年2月に高知県内で初確認となった新型コロナウイルス感染症は、令和4年度も猛威を振るい、高齢者福祉事業では、高知県内の感染者が1,000人超となった第7波の8月、やすらぎの家はクラスター感染となり、第8波の12月にはグループホームほのぼの家、1月に再びやすらぎの家、2月にはうららか春陽荘、児童福祉事業のうららか保育園では、8月、9月、12月に多数の感染者があった。クラスター時には、職員への感染も認められたが、事業所内また拠点間からの応援体制や、朝倉病院、朝倉さわやかクリニック、春野うららかクリニックの全面協力もあり、それぞれの難局は、比較的短期間で乗り越えることができ、医療・福祉の連携を始め、職員の奮闘と事業所間協力の賜と考えられる。ただ、新型コロナウイルス感染し医療機関搬送後に命を落とされたご利用者もあり、法人としてご冥福をお祈りするとともに、5類となる新型コロナウイルスの他、感染症への新たな対策を早急に取り組む必要がある。

また、新型コロナウイルスの影響は前年度に引き続き、様々な制限が継続され、職員研修や交流、ご利用者やご家族との面会、ご利用者家族や地域との交流等、ご不便をおかけした1年であった。

組織体制の強化では、医療・福祉、法人本部と各事業所との連携、各事業所の課題等を共有し解決に努めた。

危機管理対策では、自然災害や感染症に対するマニュアルやBCPは、準備されているが、まだまだ不十分な状況である。特に災害対策については、各拠点にて防災訓練の実施は行うが、地震、火災の避難訓練が主で、BCPに繋がる訓練までは実施できていない。新型コロナウイルス感染症への対策が優先された状況であったが、今後は、自然災害等への対策強化と見直しが必要である。

人材確保と育成では、介護職員確保が困難な状況は、以前より続いており、特にうららか春陽荘では、多数の退職者があり、就労希望者の採用は行うが、不足する人員の確保が十分でない状況である。高知県全体として人材不足は重要課題であるが、人材確保に向け、育成教育の強化、外部・内部研修等による資質向上に向けた取り組み、職場・労働環境の改善等の積極的な検討と実施が必要である。

経営状況では、高齢者福祉事業の特養等の入所施設では、ほぼ安定した経営状況であったが、在宅サービス事業については、新型コロナウイルスの影響は大きく、中でも、通所介護や短期入所は、感染者発生時の臨時休業や、濃厚接触者、感染予防のため利用控え等が利用者減に結びつき、厳しい経営状況であった。児童福祉事業では、年度当初130名の定員に満たない園児数であったが、12月には定員に達し、最終的に安定した状況であった。介護福祉士養成事業は、高校生人口の減少に加え、大学進学を優先する現状もあり、引き続き学生確保が困難な状況ではあるが、24名の学生を確保することができた。

(1) 令和4年度 理事会、評議員会、監事監査、開催状況

理事会

開催年月日	出席定数	決議事項
令和4年6月2日 (木) 書面決議	理事 7名 監事 2名	第1号議案 令和3年度事業報告(案)及び決算報告(案)について ・事業報告について ・決算報告について ・監事監査報告について 第2号議案 評議員会開催について 第3号議案 社会福祉充実残額について
令和4年9月28日 (水) 書面決議	理事 6名 監事 2名	職務執行状況報告 第1号議案 諸規程一部変更について
令和4年12月21日 (水) 書面決議	理事 6名 監事 2名	職務執行状況報告 第1号議案 令和4年第1回補正予算について 第2号議案 諸規程一部変更について 第3号議案 長い坂の会管理職人事について その他
令和5年3月15日 (水)	理事 5名 監事 2名	第1号議案 令和4年第2回補正予算(案) 第2号議案 令和5年度事業計画(案) 第3号議案 令和5年度当初予算(案) 第4号議案 諸規程一部変更について 第5号議案 居宅はるの事業閉鎖について 第6号議案 長い坂の会管理職人事について 第7号議案 業務執行理事の選任について 第8号議案 統括本部体制の構築について 第9号議案 評議員の退任について 第10号議案 役員報酬規程一部変更について 第11号議案 臨時評議員会開催について

評議員会

開催年月日	出席定数	決議事項
令和4年6月16日 (木) 書面決議	8名	第1号議案 令和3年度事業報告(案)及び決算報告(案)について ・事業報告・決算報告・監事監査報告 第2号議案 吉岡理事退任について 第3号議案 社会福祉充実残額について
令和5年3月18日 (土)	8名	第1号議案 新理事候補者の選任について 第2号議案 役員報酬規程一部変更について

書面決議		
------	--	--

監事監査

開催年月日	監査者	指導事項
令和4年5月27日(金)	梅田昭彦 中村文雄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業報告等の監査結果 <ul style="list-style-type: none"> 一 事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。 ・ 計算関係書類及び財産目録の監査結果 <ul style="list-style-type: none"> 計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

(2) 第三者委員活動報告

事業所名	委員	苦情相談件数	活動内容
特別養護老人ホーム やすらぎの家	門田権四郎 村岡叔世 川渕美恵子	0件	2ヶ月に1度を実施した。運営状況、人材、コロナ感染情報、重大事故事案、不適切ケアの報告等を重点的に行った。
特別養護老人ホーム うららか春陽荘	島村長生 中山すみ恵	0件	3ヶ月に1回、運営状況、不適切ケア、虐待、それに付随する人員体制等の課題と改善の取組について報告、助言をいただく。感染防止のため、施設内の巡視は行わず、短時間での開催とした。
うららか保育園	島村長生 上田和子 田村啓	3件	6回(4月、5月、11月、12月、2月、3月)に実施し、活動見学および運営状況、事故・苦情等の報告等を行い、コロナウイルス感染拡大により自粛した開催となった。

I 高齢者福祉事業

[1] やすらぎの家 関連事業

今年度は恐れていた新型コロナウイルスによる施設内感染が発生し、老人ホームやすらぎの家で8月と1月の二回、グループホームほのぼのの家で12月にクラスターとなった。感染状況の内訳としては、やすらぎの家8月感染者（ご利用者7名、ショートステイご利用者4名、職員8名）、令和5年1月感染者（ご利用者5名、ショートステイご利用者3名、職員2名）、ほのぼのの家12月感染者（ご利用者9名全員、職員4名）であった。感染対策中は、協力医療機関である、仁泉会朝倉病院、朝倉さわやかクリニック、春野うららかクリニックの全面協力の元、ご利用者の入院対応や健康チェック、ゾーニングや環境整備、看護師の夜勤対応等、細かくアドバイスをいただき感染は最小限1か所のグループのみで抑えることが出来た。今回の感染に関して、協力医療機関の協力・連携は当施設の最大の強みであることを実感し職員も心強く感じ、ご家族にも安心と感謝をしていただいた。また、コロナウイルスの強い感染力を実感しながら、看護師が中心となり自分達も感染リスクと背中合わせの中、限られた職員数で感染対策に取り組んでくれた全職員に心から感謝を申したい。その中で、どうしてもショートステイの受入れを中止せざるを得ない期間ができ、在宅生活をされている方には不便な思いをさせてしまったことは今後の課題として検討していきたい。年間を通してコロナウイルスに合わせた動きとなり、今年度もご利用者・ご家族・施設・職員の交流に制限が続き、満足していただける支援が十分出来なかったが、今後は国の感染対策も大きく変わっていくため感染へのリスク管理を意識し、状況に合わせ柔軟な対応が出来るよう取り組んでいきたい。

施設全体としては、コロナ感染はあったが年間を通じて目標稼働率は達成出来た。しかし介護人材の確保に苦労した1年となり、求人先として選ばれる機会が少なかった。次年度に向け、ご利用者層も少しずつ重度になっている中で、いかに当事業所で働きたいと思ってもらえるか、またご利用者の方には入所したいと思ってもらえるか、サービス面、働く環境面共に職員の意見も取り入れながら、早急に見直し・改善に取り組んでいきたい。また、建物の老朽化で修繕箇所も増えており、生活するご利用者に快適に生活していただけるよう計画的に修繕にも取り組んでいく。そして、地域や施設外の方との交流もほとんど出来ない状況が続いていたため、今後は可能な範囲で交流が再開でき、少しずつ活気ある施設になるよう努力して行く。

1 特別養護老人ホームやすらぎの家

(1) 介護部門

今年度は、新型コロナウイルス発症による感染隔離対応を経験し、他部署との連携や協力医療機関の協力のもと二度のクラスターにはなったが、職員は感染に対する意識や臨機応変な対応ができるようになった。感染対策中は職員への罹患も多かったが、平日頃から極力職員からの持ち込みによるご利用者への感染を防ぐことを意識し努力した点は職員の

頑張りを評価したい。

しかし、感染力の強さを経験し隔離対応中は課題も多く居室環境の見直し・改善、リスク回避への対応に追われたため、今後も冷静に迅速な感染対策が取れるよう準備を怠らず環境整備に努めていく。

感染予防の為、ご利用者とご家族の関わりや面会に制限をさせて頂いた。隔離対応の期間も長かったことで行事も最小限で行い、企画が中止となることもあった。そのため、楽しんで生活をして頂けるような取り組みとしては十分にできなかった。

内部研修は職員の交流を減らし動画やグループ単位で実施、外部研修もリモートやオンラインで行う事が多かった。

実習受け入れについてはコロナ禍の中、同法人内の専門学生を積極的に受け入れ、感染対策を学校と共有し合い実習の場の提供に協力した。指導する立場として職員の責任感も芽生え実習生との関わりを深めていく事ができた。

目標のノーリフティングケアを進めていく中で、理学療法士を中心にデモ機を借り、新たな福祉用具の取入れに向けて検討を行った。外部研修にも参加できた事から今後は積極的にケアに活用し実践に向け研修会などを開催し実現していく。

1号館

ご利用者の思いを聞き趣味の実現など希望に添えるよう努めた。

また、自立した生活が維持できるように必要な場面での支援を行った。

感染予防のため職員の応援体制を制限したことや、職員数が揃わず人材育成のために十分な期間を設けることができなかった。介護技術の面では重度ご利用者を対象に理学療法士とともに移乗方法の見直しを行い、身体レベルに合わせた福祉用具を取り入れて支援ができた。

2号館

ご利用者とコミュニケーションを図り日常会話の中から気付きを増やし、ご自分から発信できないご利用者には排泄ケアや食事面で観察したことを職員間で情報交換しケアの充実に努めた。職員配置が不十分な中でも勤続年数の長い職員が新人職員への指導を行い、得意分野を活かし各委員会から発信し、利用者ケアの検討、実践、振り返りを行う事が出来た。ご利用者の身体レベルに合わせたリフトの使用を開始し、グループ内でリフト使用方法の伝達等も行うことで浸透し、使用できる職員が増えノーリフティングケアへの理解にも繋がってきた。

(2) 介護支援専門員

- ・感染予防でなかなか面会ができない中、ケアプランの説明以外でも、電話連絡や来所があった際には本人の様子を伝える事が出来た。
- ・コロナに罹患した方のご家族には状況を説明し、その後も経過を電話で伝える事が出来た。
- ・糖尿病があるご利用者の嗜好品について、本人・家族の意向を踏まえて嘱託医に相談し、出来る限り食べる楽しみが続けられるようにした。
- ・本人の行動を制止せず動けるように、ホール内の環境を整え、居室移動をするなど、多

職種で検討し工夫した。

(3) 医務室

① 健康管理について

今年度は施設内で新型コロナ発症があり、医務室の感染対応が要となる場面が数多くみられた。職員の感染も続いたが、多職種の協力の元、協力病院の支援を受けながらクラスター発生時は夜勤対応も行い、コロナ禍を切り抜ける事ができた。感染対策については新型コロナの感染力を目の当たりにし、看護師にとっては実践を通して学びや対策の修正につながる事も多かった。再感染防止のため、検温・病状確認の回数を 10 時 14 時 17 時に行い、病状変化の早期発見に努めた。新型コロナ対応が先行した反面、外部研修・OJTの時間確保が困難であったが、緩下剤コントロール研修 Web 参加、セルフマネジメントの外部研修に可能な限り参加できた。

また、今年度は各自が分からない事は調べて情報共有する事は行えており、自己研鑽の意識が向上しつつあると思われる。感染対策時でも検温時間を検討し実施出来た結果、発熱者の早期発見につながり、嘱託医・さわやかクリニックと連携して早期対応に繋げることができている。今後も医務室看護師全体で研鑽し、ご利用者の状態把握に努め、病状悪化予防、早期発見に努めていく。

② 内服薬・外用薬の管理について

誤薬「0」を目指したが、医務室看護師ミスによる誤薬は4件、介護現場で起こったが医務室で改善を要した誤薬は2件発生している。

4月	点眼薬を他のご利用者に点眼した→点眼液と本人の照合時介護職員に聞いてもらい声出し確認徹底。
7月	配薬ボックスに残薬あると気が付かずに服用が抜かった。→手作りの配薬ボックスで、残薬の確認が難しかったため、直ちに色付けと仕切りの改善を行った。
9月	定期薬変更時に処方箋への記載が分かりにくく伝達できていなかった→処方箋への変更の記載方法の詳細までマニュアル化を行った。
10月	精神科医変更薬の転記抜かり→処理時のダブルチェックの徹底。
	定期薬は服用したが、配薬ボックスに臨時薬が残っていた。→医務室で臨時薬を確認後定期薬にホッチキスで留めることを徹底。最終的に、残薬を見落とさない様に既成の配薬ボックスを購入した。
	ショートご利用者（胃瘻）の把握と昼食誤薬の注入抜かり→経管栄養の薬のマニュアル作成と周知、ショート利用者情報を見やすい場所に置き、薬の情報も確認する。現場のダブルチェックも徹底を行った。

③ 感染対策中の行事について

感染対策で行事等の制限がある中、介護・医療職が協力しうなぎのかば焼きの実演を行った。ご利用者は四季に応じた行事を楽しむことが出来、職員もご利用者の喜ぶ姿が見え嬉しかった。ご利用者・職員の感染対策をしっかりと行う事で安心してコミュニケーションが取れ良い交流が図れた。

(4) 給食室

ご利用者が楽しみや生きがいを感じられるよう、食と栄養を通じた生活支援の取り組み

を行うことを目標に給食業務については委託業者モリグリーンフーズと連携のもと業務に取り組んだ。食事提供の改善・向上やご利用への安全な食事提供するために他部署、委託業者参加の給食部会を毎月実施した。また季節を感じ、外出の気分や食事を楽しんで頂く目的で行事食・イベント食を実施した。

栄養面に関しては全ご利用者に対し栄養ケアマネジメントを毎月実施した。また、担当者会へ参加しご利用者の栄養改善・維持に努めた。感染対策については、施設感染対策実施時、対策実施箇所に対しデイスコ食器による食事提供など感染拡大防止に努めた。

イベント食	
4. 29～5. 5	各祝日行事食
6. 15	ご当地メニューの日：北海道スープカレー
6. 19	父の日行事食
6. 30	開園記念日行事食
7. 7	七夕行事食
7. 12	ご当地メニューの日：みそポテト
7. 22	土用の丑の日 かば焼き実演（うな重）行事食 *かば焼き実演については他部署連携にて実施
8. 14	ご当地メニューの日：トンテキ
9. 21	敬老の日行事食・ケーキバイキング
10. 3	季節の食材：松茸ご飯
10. 19	十五夜行事食
11. 3	文化の日行事食
12. 22	冬至の行事食
12. 31	大晦日行事食
1. 1～3	正月料理
1. 10	鏡開き行事食
2. 1	ご当地メニューの日：沖縄料理フェア
2. 3	節分行事食
2. 14	バレンタインデー行事食
3. 1	ご当地メニューの日：高岡菜っ葉コロケ
3. 3	ひな祭り行事食
3. 6	ご当地メニューの日：長崎ちゃんぽんラーメンセット
3. 17	花見・出店

※通常食とは別イベント他部署協同にて実施

※対象は全行事ショートステイを含む経管栄養2名以外全利用者

(5) 機能訓練指導員

ご利用者の身体状態を把握し、身体機能が維持できるように取り組み目標は概ね達成することができた。ただし、状態に変化のあったご利用者に対する、介助方法の変更、伝達、またポジショニングなど対応が遅かった時もあった。

今年度は、介護職員とノーリフティングケアの研修に参加し現場に伝達を行いリフトの使用方法や使用する意義を伝える事が出来た。

今後はご利用者の状態を随時把握し、最適な介助方法やポジショニングを早めに検討していけるよう多職種に声を掛け取り組んでいく。また福祉用具も積極的に使用していき、伝達ができる機会を増やしていく。

(6) 委員会

【事故防止委員会】

- ・ 誤薬に関しては、コロナ感染対策により通常とは異なる業務の流れとなったことで、職員間の情報共有・連携不足によりミスが目立った。又、マニュアルが遵守出来ていない誤薬が多かったため、部署会でマニュアルの確認を繰り返し行い誤薬防止を啓発していく。
- ・ 介助中の身体事故に対しては専門職（理学療法士）のアドバイスをもとに検討し、再発防止に繋げることができた。移乗介助時の事故については、リフトを積極的に使用することで職員の移乗介助に対する意識が変わった。
- ・ 事故発生後、パソコン上の記録の取り方を、「事故経過」〇月〇日（事故種別）で記入するように統一したことで、経過観察・事故についての情報共有が円滑にできるようになった。

【身体拘束廃止・虐待防止委員会】

定例会、総会は年間各4回開催できた。内容としては、各部署で1年間を通し毎月の目標を挙げ実施出来たか否かの振り返りを各定例会で行い、総会で報告をした。委員会は各部署会で開催できた。

内部研修は、職員全体で集まる機会がなく web や YouTube 又 DVD を活用し虐待防止内部研修を年1回、身体拘束廃止年1回、外部研修参加の権利擁護伝達研修年1回行った。

施設全体としての目標「虐待ゼロ」は目標達成できたが、不適切ケアは1件挙がっている。内容もふまえ、施設全体の事として真摯に受け止め今後のケアに生かせるように、委員会・部署会で職員に内容を周知し今後現場で起こりうる不適切ケアについて考えた。各フロアの掲示板・面会の掲示板に1ヵ月間情報開示をした。

【感染予防委員会】

今年度は新型コロナウイルス感染症のクラスターが1号館1階で2回、職員とご利用者1名の発生が2号館2階であった。施設全体での感染対策委員会において全部署が一丸となり、協力医療機関の協力も得て終息を迎えている。感染対策の課題として、職員のPPEの正しい装着方法の指導、迅速なゾーニングが挙げられた。その中で感染委員が中心となって、全職員対象にPPEの装着手順の実演講習と、抗原検査キットでの正しい検査方法の実演講習を行った。

尿路感染症・蜂窩織炎での入院者ゼロを目指して観察・水分摂取調整・環境（室温・湿度・着衣など）調整、陰部洗浄強化の啓発を行った。全体研修では、尿路感染症の基礎的勅使についての集合研修を各グループに出向き全看護師が順番で行った。陰部洗浄については、現場への直接指導に入ることができていないため引き続き今後の課題とする。

【褥瘡予防委員会】

ご利用者の褥瘡発生予防と、発生時における苦痛の緩和と早期治療、ケア提供を適切に行うため、各職種の専門性に基づくチームケアを行うことを重点目標として取り組んだ。介護現場での情報共有による早期対応、理学療法士による早期介入、多職種による

検討会の実施、マットレスの見直しなどを行った。剥離発生件数は令和3年度17件、令和4年度6件。褥瘡発生件数は令和3年度8件、令和4年度9件であった。

実施日	実施	実施内容
4.4	褥瘡委員会総会	
5.11	定例会	1. グループでの褥瘡対策検討会の提出書類について 2. 現在の剥離、褥瘡状況報告および予防対策 3. 褥瘡委員会議事録について
10.4	定例会	1. 褥瘡、剥離の発生状況、対応について 2. 下半期褥瘡委員会としての取り組み 3. 連絡事項 4. その他
10.26	褥瘡委員会総会	
12.7	定例会	1. ベッド使用状況調査について 2. 現状報告
3.24	定例会	1. 総会にむけて 2. 令和4年度のまとめと次年度に向けての取り組み

やすらぎの家 内部研修参加状況

月日	研修名	研修場所
4/1	訓示・事業計画 施設長より	くつろぎホール
6/21. 22. 23	感染症予防委員会① 「食中毒の動向と予防・手指衛生」	くつろぎホール
6/3. 8. 10. 14. 20. 21	感染症予防委員会② 尿路感染症	くつろぎホール
8/25	腰痛体操 理学療法士より	各部署
9/2	シェイクアウト訓練 事務主任	各部署
9/20. 27	事故防止委員会① 介護現場のヒヤリハット---	部署会
10. 5. 12. 19. 26	身体拘束・虐待防止① 身体拘束ゼロ	くつろぎホール
10/27. 28	ノーリフティングケア 理学療法士・介護職員	くつろぎホール
10/24. 26. 27. 28	身体拘束虐待防止委員会② 権利擁護伝達研修相談員	くつろぎホール
12/19. 20. 22	感染症予防委員会③ 感染予防・防護服着脱方法	くつろぎホール
R5. 2/20. 28	事故防止委員会② 服薬マニュアルの再確認	くつろぎホール
3/8	AED 医務室・事務主任	くつろぎホール
3/27	防犯講習 南警察所	くつろぎホール

3/27.28	身体拘束虐待防止委員会③	くつろぎホール
	「それって身体拘束？虐待？」	

(7) 事務部門

- ・ 施設の窓口として接遇に十分配慮し、明るく、親切、丁寧、迅速な対応に努めることができた。
- ・ ご利用者が安心して楽しく生活できるような施設の環境整備は感染対策のため殆どできなかつたが、次年度に向けて環境整備の優先順位を決めしっかりと準備できた。
- ・ 感染対策を継続するため、衛生材料の適正在庫管理が行えた。
- ・ 南海トラフ地震対策優良取組事業所5つ星認定を継続することができた。

(8) 生活相談員部門

地域交流や、ご家族と共に活動する家族会、家族清掃、納涼祭等その都度検討してきたが新型コロナ感染予防のため実施する事が出来なかつた。ご利用者ご家族の面会についても法人の感染基準に基づき面会方法、人員制限をさせて頂く事となった。

入所待機者に対しては、入所指針に基づき適正に検討を行ない、入所に向けて迅速に対応できた。入所前の聞き取りについては web・zoom 対応が可能な施設とは積極的に行う事で調査方法の幅が広がった。

次年度は、昨年度実施した朝倉地区地域活動に積極的に参加できるよう働きかけ地域との繋がりが途切れないように活動していく。

令和4年度 やすらぎの家 入所者状況 (やすらぎの家 ご利用者状況)

市町村	高知市	土佐市	須崎市	香南市	安芸市	いの町	本山町	越知町	黒潮町				計
男性	25	2	1	0	0	0	0	0	0				28
女性	69	1	1	1	1	2	1	1	1				78
計	94	3	2	1	1	2	1	1	1				106

令和4年3月31日現在

年齢別人員

性別	～64	65～74	75～84	85～94	95～	合計	最高	平均
男	0	4	12	11	1	28	95	84.3
女	0	6	18	43	11	78	100	86.8

令和4年3月31日現在

入退所状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者	男	2	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	2
	女	4	0	4	2	1	2	1	1	1	1	3	1
	計	6	0	4	2	1	2	2	2	3	2	3	3
退所	男	2	0	0	0	0	0	1	0	3	1	0	3
	女	4	1	3	2	2	1	1	3	0	3	1	0

者	計	6	1	3	2	2	1	2	3	3	4	1	3
月末人員	男	29	29	29	29	29	29	29	29	28	28	29	28
	女	77	77	77	77	76	77	77	77	77	76	77	78
	計	106	106	106	106	105	106	106	106	105	104	106	106

サービス利用状況

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4月	延べ	0	0	552	1,698	767
	実利用	0	0	20	60	26
5月	延べ	0	0	578	1,759	817
	実利用	0	0	20	59	27
6月	延べ	0	0	660	1,631	820
	実利用	0	0	22	55	29
7月	延べ	0	0	713	1,595	869
	実利用	0	0	23	54	29
8月	延べ	0	0	682	1,598	872
	実利用	0	0	22	53	30
9月	延べ	0	0	643	1,565	859
	実利用	0	0	22	54	30
10月	延べ	0	0	639	1,708	868
	実利用	0	0	21	56	29
11月	延べ	0	0	551	1,708	810
	実利用	0	0	20	58	28
12月	延べ	0	0	494	1,825	868
	実利用	0	0	17	60	28
1月	延べ	0	0	410	1,842	780
	実利用	0	0	15	62	27
2月	延べ	0	0	386	1,682	773
	実利用	0	0	15	62	29
3月	延べ	0	0	494	1,748	806
	実利用	0	0	16	60	30

令和4年度 年間行事

月 日	行 事 名	来園者	施設側
7月22日	土用の丑の日		
9月30日	敬老会		
10月3日	慰霊祭		
12月19日	防災訓練		
3月17日	花見		

※上記以外に、グループ毎に毎月の誕生日会、クリスマス会、喫茶等実施

※新型コロナウイルス感染症対策の為、外部との交流のある行事は実施できなかった

※ボランティア NTT OB 12/6 18名

2 短期入所生活介護（ショートステイ）

感染予防に努めていたが、ショートステイご利用者から新型コロナウイルス感染症が蔓

延し、受け入れを制限する時期があった。感染症蔓延後は環境整備を行い、ショートステイ利用者を受け入れる環境を見直した。ショートステイ利用者を受け入れるにあたり、感染予防をしながらの受け入れに模索した1年であった。結果として重点目標であった稼働率95%は達成できなかったが、協力医療機関の協力を得ながら現在も継続して感染予防に努めている。また入所に関してはショートステイ受入れの特徴を活かし、在宅生活が困難になり、地域の特養を希望される方はやすらぎの家の入所へ繋げることが出来た。今後も、1日でも長く在宅生活が継続出来るように居宅ケアマネージャーと連携をとっていく。

令和4年度 やすらぎの家（短期入所）サービス利用状況（介護保険請求者数による）

		支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
4月	述べ			18	27	104	88	21	258
	実利用			3	6	9	11	2	31
5月	述べ			41	30	118	75	25	289
	実利用			6	5	9	9	3	32
6月	述べ			45	34	96	99	34	308
	実利用			6	4	9	11	3	33
7月	述べ			30	39	78	115	42	304
	実利用			6	6	7	14	3	36
8月	述べ			6	12	12	61	12	103
	実利用			2	5	3	9	2	21
9月	述べ			7	36	26	32	0	101
	実利用			2	3	3	6	0	14
10月	述べ			11	10	36	55	3	115
	実利用			2	2	2	7	1	14
11月	述べ			8	19	16	68	4	115
	実利用			1	4	2	11	1	19
12月	述べ			21	27	19	110	21	198
	実利用			4	4	3	10	2	23
1月	述べ			27	22	11	71	17	148
	実利用			4	3	2	10	2	21
2月	述べ			22	24	24	91	26	187
	実利用			3	2	3	10	2	20
3月	述べ			32	56	15	77	14	194
	実利用			4	6	2	9	3	24
合計	述べ	0	0	236	280	540	865	205	2320
	実利用	0	0	43	50	54	117	24	288

3 グループホームほのぼのの家

- ① コロナ過での面会制限がある中で、ご家族様への連絡時には生活状況を伝えることで安心して頂けた。
- ② 行事については季節の行事や、誕生日会等を行いご利用者の笑顔を見て職員も行事についての創意工夫しやる気に繋がった。今後はコロナ前のような外出が出来るよう取り組んでいく。
- ③ 体調不良時等には協力医療機関や訪問看護との連携を図り、早期の病院受診を行う事

が出来た。又歯科受診等もかかりつけへ受診をすることでご利用者、ご家族の希望に沿うことができた。

- ④ 防災、防犯訓練は関係機関と連携を取り災害時等の協力体制を確認できた。また、地域清掃に参加し地域の方々と交流することができた。
- ⑤ 職員研修についてはオンライン研修等に参加して処遇部会で伝達研修を行い、参加出来なかった職員にも情報を共有し、知識を得ることができた。今後も計画的に研修に参加出来るように取り組んで行く。

利用状況

介護状態		入居者年齢別		入居前状況		日常生活自立度		認知症の程度	
要介護1	3名	80-85歳	2名	自宅	5名	A1	3名	Ⅱb	2名
要介護2	2名	86-90歳	3名	病院	4名	A2	5名	Ⅲa	6名
要介護3	3名	91-95歳	4名			B1	1名	Ⅳ	1名
要介護4	0名								
要介護5	1名								

日常生活動作状況

	歩行	食事	入浴	着脱	排泄
自力	2名	8名		2名	3名
一部	6名		8名	6名	5名
車椅子		1名			
全介助		1名	1名	1名	1名

入退所者・入退院者状況

	入所者	退所者	入院者	退院者
4月				
5月		1名		
6月	1名	1名		
7月	1名			
8月			1名	1名
9月				
10月			2名	1名
11月			1名	2名
12月			1名	
1月				1名
2月				
3月				

入院者数 5 名、入退所者 4 名

活動状況

月	活動名	人数	月	活動名
4月	誕生会(誕生者2名)	9名	10月	誕生日会(誕生者1名)

5月	誕生会(誕生者0名)	8名	11月	運動会
6月	誕生会(誕生者0名)	9名	12月	クリスマス会
7月	七夕行事	9名	1月	誕生会(5名)
8月	ほのぼの夏祭り (たこやき、ちらしずし、かき氷、スイカ割り、ヨーヨー釣り、輪投げ)	8名	2月	節分
9月	敬老会(歳祝い2名)	9名	3月	誕生会(1名) 雛祭り

内部研修状況

研修名「内部研修」	開催日	場 所	参加者
身体拘束・虐待防止委員会	毎月第二木曜	ほのぼのの家	全職員
感染予防委員会	毎月第二木曜	ほのぼのの家	全職員
事故防止委員会	毎月第二木曜	ほのぼのの家	全職員

外部研修参加状況

研修名	開催日	開催者	場 所	参加者
アンガーマネジメント研修	8/19	高知県福祉研修センター	ふくし交流プラザ	1名
第17回認知症のマネジメント講習会(ZOOM)	9/3	認知症のマネジメント講習会事務局		1名
リスクマネジメント：苦情の理解と対応(ZOOM)	10/7	高知県社会福祉協議会	ふくし交流プラザ	2名
感染予防基礎(ZOOM)	10/3	高知県社会福祉協議会		1名
医療職との連携(ZOOM)	11/24	高知県社会福祉協議会		1名

[2]うららか春陽荘関連事業

令和4年度も新型コロナウイルスの影響に左右される1年であった。特に施設としての地域貢献や地域との交流もできず、施設内でも感染予防を最優先に行うことで入所ご利用者の面会が長期にわたりできなかった。県内、市内の感染状況を見ながらとはいえ、職員は感染予防を1年間努めた結果となった。また、令和4年度は感染発症が家庭内からの感染源が多い傾向であった。これまで当施設ではクラスターにはならなかったが、今年度は施設内での感染発症となった。利用者、職員を合わせ11名の感染となったが、状態悪化を防ぐため早期入院の対応や保健所指示のもと協力医療機関、法人内事業所の協力を得ることができ、重症者を出すことなく最短で終息することができた。

運営面では、昨年度から引き続き離職が続き、その影響も大きかった。退職者と採用のバランスも難しく、上半期では求人が来ない場面が続くことがあった。また、採用者に対しての指導等も指導者となる職員が勤務に回るため難しいこともあった。そのことから、令和4年度は厳しい年度となった。

今年度は、人材確保、育成に力を入れ各ユニットでご利用者への接し方や対応方法なども原点に戻り取り組んだ。また、年間計画として、チームケアの実践として多職種間の連携も行いながら、各種委員会や会議等での活性にも努めた。

サービス面では研修面では、外部研修の参加が厳しく、施設内での研修として、zoom研修などを行ったが、外部研修等での職員間の情報交流の場などがなかったことは残念だった。

経営面では、在宅部門は新型コロナウイルスの影響により、利用率は左右される結果となった。ご利用する方の介護サービスの共有により、感染発症者が出た場合などは情報共有ができたことで感染拡大は防げた。

入所では2月に感染発症したため、稼働率は低迷したが、日常の健康管理については感染予防を行うことで早期発見、対応ができたことで受診数や入院者数は少なかった。

1 特別養護老人ホームうららか春陽荘

基本・初心に戻り、ご利用者ひとりひとりが安心して生活できるように、多職種の情報共有やチーム連携ケアを目標に掲げていたが、慢性的な欠員が大きく影響し様々な施策が計画通りに進める事が困難な状況が続いた。

貴重な体験をする機会と捉え、施設全体で協力しあった事は学びとなり、基本や初心を体感する事はできた。だが、安全、安心した生活には十分といえない課題が残っている。今後は未然に防ぐ観点で残された課題とケアの向上に努めたい。

活動実績 入所定員：80名 ※稼働率95%を目標値とした

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	97.6	94.1	97.7	96.3	96.0	95.3	94.3	95.1	94.4	93.1	88.6	91.4	94.5
達成率	102.7	99.1	102.8	101.4	101.1	100.3	99.3	100.1	99.4	98.0	93.3	96.2	99.48

行事等

5月	空調設備一斉清掃
6月	第1回消防訓練
7月	七夕・田役（草刈・道づくり）
8月	夏祭り・土用の丑の日
9月	敬老会・災害ワーキング
10月	鯉のたたき実践・空調設備一斉清掃
11月	お芋ほり・春野中央保育園来荘・第14回作品展
12月	クリスマス会・「大掃除・焼き芋」・年末恒例 餅つき・第2回防災訓練
2月	節分
3月	お花見

外部研修

開催月	内 容
4月	高知県老人福祉施設協議会 総会
7月	高知県高齢者、障害者虐待防止・権利擁護研修 介護助手導入の取り込みについて 災害時相互応援実施体制についての説明及び質疑応答
8月	高知県老施協リスクマネジメント研修（オンライン研修）
9月	令和4年度福祉サービス苦情解決セミナー 令和4年度 介護施設における安全対策担当者養成研修（オンライン研修）
11月	第73回高知県社会福祉大会（オンライン研修） 大人の発達障害に関するセミナー
12月	「令和4年度 自立支援総合研修」 介護現場における口腔ケアについて（オンライン研修） 「身近に感じてほしいサルコペニア褥瘡」 「リハ栄養の現状と課題」（オンライン研修）
1月	社会福祉施設長資格認定講習課程受講
2月	「令和5年度社会福祉施設総合保険制度説明会」（オンライン研修）
3月	令和4年度 福祉サービス第三者委員ブロック別研修会 心不全の食事管理～血液検査でわかること～（オンライン研修） 令和4年度 給食関係者研修会（オンライン研修） 新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に向けた研修（オンライン研修） 虐待の疑いにつながる原因不明の傷・アザ・骨折への対応策（オンライン研修）

内部研修

開催月	内 容
4月	新年度式
8月	褥瘡予防委員会研修1回目「褥瘡予防研修」
10月	身体拘束・虐待防止委員会研修1回目「高齢者虐待防止について」

11月	感染対策委員会研修1回目「感染かも？と思った時の対応」
1月	「虐待行為についての周知と改善にむけて」 「職場におけるハラスメントについて」
2月	褥瘡予防委員会研修2回目「褥瘡を防ぐための工夫①②」 身体拘束・虐待防止委員会研修2回目「虐待防止について」

2 短期入所生活介護うららか春陽荘（ショートステイ）

①在宅生活継続の支援

在宅生活の延長線上にサービスがあるということを念頭に置き、サービス時は状態を丁寧に観察し、ご利用者、家族様のニーズにお応えできるよう努めた。ご利用者個々の日常生活の動作が維持できるよう、自立支援を行った。また、体操のビデオを見て一緒に体を動かしてもらうなどして感染対策をしながら出来る範囲で筋力アップを試みた。

②ご家族支援

送迎時や、入所前連絡などにより、家族様ともコミュニケーションを密に取り、信頼関係を深めると共に、情報共有のみならず、気兼ねなく相談していただける関係性を築いた。

③稼働率の安定

居宅介護支援事業所との連携を密にし、情報提供行なうよう心掛けた結果、キャンセル待ちのご利用者の確保、当施設だから頼めると言うような家族様や、居宅介護事業所様からの評価は頂いた。稼働率についてはコロナの感染拡大の時期は利用を控えるご利用者も居られたこと、2月には実際感染者が発生したこともあり利用中止にした期間稼働率は下がった。

活動実績 利用定員：20名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日平均	9.1	8.3	8.0	8.2	9.2	8.6	8.2	7.9	7.6	7.6	2.2	7.0	7.7
稼働率	45.7%	41.5%	40.0%	40.8%	46.0%	43.2%	41.0%	39.5%	38.1%	38.1%	11.0%	35.2%	38.3%

※人材確保難により R3.2.7 より 1 ユニット (10 名)

外部研修

月	開催地	研修名	研修内容	参加人数
9	ZooM 参加	第 69 回四国老人福祉関係者研究大会	「在宅生活の継続への支援」発表	3名
8	オンライン研修	「令和5年度社会福祉施設総合保険制度説明会」	「令和5年度社会福祉施設総合保険制度について」	1名

内部研修

開催月	内 容
4月	新年度式
8月	褥瘡予防委員会研修1回目「褥瘡予防研修」
10月	身体拘束・虐待防止委員会研修1回目「高齢者虐待防止について」
11月	感染対策委員会研修1回目「感染かも？と思った時の対応」

1月	「虐待行為についての周知と改善にむけて」 「職場におけるハラスメントについて」
2月	褥瘡予防委員会研修2回目「褥瘡を防ぐための工夫①②」 身体拘束・虐待防止委員会研修2回目「虐待防止について」

3 デイサービスセンターはるかぜ

感染予防に配慮しながら、活動目的別の部屋を活用し、体操や歩行等の生活動作訓練、創作や脳トレ、園芸等の個別活動、季節の行事等様々な取り組みを感染予防に配慮しながら、継続して行うことができた。しかし、保育園や幼稚園との交流が中止や季節行事の縮小、行事食の中止など、活動意欲向上に繋がりにくい結果となった。

接遇についても、内部研修を行い、今後もご利用者、ご家族との信頼関係を築くため、接遇を意識した対応を継続していく。

介護事故については、ご利用者の状態把握が不十分であったことが原因となった転倒事故、職員の確認不足等によるや誤薬事故が発生し、重大事故となった。事故を未然に防ぐため、ご利用者の状態観察による気付きや確認等のリスクマネジメント能力の向上と職員間の情報共有、連携をしていく体制の強化が必要である。

運営に関しては、1年を通して目標を達成することができなかった。居宅介護支援事業所との連携を図り新規利用者獲得に努めたが、7月より日曜日休業に伴い新規や利用者数が半減、2月コロナ陽性者あり営業休止したことにより、再開後も利用控えや他事業所への移行や入院が多くあり、稼働率低下となった。利用日を増やす新規利用者獲得が課題となった。

活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日平均	20.3	19.2	19.6	19.0	16.2	16.0	16.9	16.8	16.7	14.0	15.9	16.2	17.2
稼働率	67.7%	64.0%	65.3%	63.3%	54.0%	53.3%	56.3%	56.0%	55.7%	46.7%	53.0%	54.0%	57.4%
達成率	81.2%	76.8%	79.6%	76.0%	64.8%	64.0%	67.6%	67.2%	66.8%	56.0%	63.6%	64.8%	68.9%

外部研修

開催日	開催地	研修名	主催者	
7月	オンライン研修	医療職との連携	高知県社会福祉協議会	1名
8月	オンライン研修 オンライン研修	リスクマネジメント研修 令和4年度高知県高齢者虐待防止・権利擁護研修	高知県社会福祉協議会 高知県社会福祉協議会	1名 1名
9月	オンライン研修	接遇	高知県社会福祉協議会	1名
10月	高知市	ケアリーダー研修	高知県社会福祉協議会	1名 (計2名)
11月	高知市	高知県老施協 医療職との連携	高知県社会福祉協議会	1名

2月	オンライン研修	権利擁護研修	高知県社会福祉協議会	1名
----	---------	--------	------------	----

内部研修

開催月	研修内容
4月	事業計画
8月	介護事故防止
	褥瘡予防
	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
10月	福祉車両安全運転運行
11月	高齢者虐待・身体拘束虐待廃止
	感染症予防対策
1月	接遇
2月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
	褥瘡予防
3月	事故防止（重大事故の認識について）

事故件数

転倒	4件（内1件：左膝ヒビの疑い、1件：誤薬）
皮膚受傷	1件

4 デイサービスセンターそよかぜ（認知症対応型）

認知症の症状を理解することだけでなく、個々のご利用者の生活歴や価値観、日々の関わりからご利用者の思いを深く知り、職員間で情報共有を行い、根拠に基づいた統一したケアを行うことでご利用者が安心して過ごす事や送迎時にご家族とのコミュニケーションを積極的にとるように心掛け、ご自宅での様子を伝えていただいたり、連絡帳の返信が増えるなど、成果が見られている事もあり、今後もご家族を含めた支援や専門性の高い認知症ケアを提供することを目的に事業所内で勉強会を継続して行っている。

また、季節行事や行事食を開催することで、ご利用者の楽しみ、職員の喜びにも繋がったが、コロナ対策等にて規模縮小や継続が難しい事があった。

そして、運営に関しては、居宅介護支援事業所との連携を図り新規利用者獲得に努め、新規利用者があったが、1年を通して施設入所や入院のご利用者が多く、コロナ陽性者があり令和5年2月営業休止やコロナ感染予防対策等により他事業所に移行の方も多く、稼働率低下となった。

活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日平均	6.6	5.0	5.0	4.6	4.6	3.2	6.2	5.9	4.7	4.7	6.1	7.6	5.35
稼働	55.0%	41.7%	41.7%	38.3%	38.3%	26.7%	51.7%	42.9%	39.2%	39.2%	50.8%	63.3%	44.6%

率														
達成率	55.0%	41.7%	41.7%	38.3%	38.3%	26.7%	51.7%	42.9%	39.2%	39.2%	50.8%	63.3%	44.6%	

外部研修

開催日	開催地	研修名	主催者	参加人数
5月	オンライン研修	認知症介護基礎研修	高知県社会福祉協議会	1名
9月	オンライン研修	令和4年度高知県高齢者虐待防止・権利擁護研修	高知県社会福祉協議会	1名
10月	高知市	ケアリーダー研修	高知県社会福祉協議会	1名(計2名)
2月	オンライン研修	権利擁護	高知県社会福祉協議会	1名

内部研修

開催月	研修内容
4月	事業計画
8月	介護事故防止
	褥瘡予防
	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
10月	福祉車両安全運転運行
11月	高齢者虐待・身体拘束虐待廃止
	感染症予防対策
1月	接遇
2月	高齢者虐待防止・身体拘束廃止
	褥瘡予防
3月	事故防止(重大事故の認識について)

勉強会

4月	認知症の人の理解と対応
6月	認知症の定義と原因疾患
7月	認知症の中核症状と行動心理状態の理解
9月	認知症の人のコミュニケーション 「新たな認知症ケア「ユマチュードとは」
10月	福祉車両安全運転運行
11月	認知症の人の行動の背景を理解したケアの工夫

事故件数

転倒	3件(内1件:左膝ヒビの疑い、1件:誤薬)
----	-----------------------

5 居宅介護支援事業所はるの

令和4年度も昨年度以上に新型コロナウイルス対策が求められ広報や営業活動に制限のあ

る1年となった。事業計画に位置付けていた居宅介護支援事業所が中心となり地域の相談窓口としての認知を上げる取り組みは十分に行うことができなかった。

平成31年度に開催した介護者が交流する機会は令和3年度に続いて令和4年度も設けることができなかった。ZOOMを使用した研修、会議への参加を行い、介護支援専門員の資質向上に努めが、年明けから介護支援専門員の退職が続き、法人内居宅介護支援事業所と合併し、当事業所は令和5年4月30日をもって廃止することとなった。

活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	87人	87人	86人	83人	83人	85人	82人	81人	78人	75人	37人	25人
予防	22人	20人	19人	18人	18人	18人	18人	15人	15人	14人	4人	0人
達成率	93.3	92.4	91.0	87.6	87.6	89.5	86.7	84.3	81.4	78.1	37.1	35.7

6 高齢者住宅等安心確保事業（横浜ニュータウン）

高齢者の方も増えてきており、入退院をされる方々が増えてきた。気候や新型コロナウイルスの感染状況等も確認しながら入居者に注意喚起する事が出来た。相談者を居宅介護支援事業所やその他の関係機関に繋ぐ事が出来た。

新型コロナウイルスの感染者数も少なくなってきたので感染対策をしっかりと取りながら2月よりいきいき百歳体操を再開した。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
生活指導	実	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3
	延	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3
安否確認	実	26	26	25	25	25	24	22	22	21	22	21	21	280
	延	200	198	253	263	250	247	252	212	245	227	239	249	2835
家事援助	実	5	10	9	8	8	9	11	7	10	8	7	12	104
	延	8	29	29	55	51	37	47	39	43	51	43	52	484
緊急時対応	実	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	延	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
関係機関との連絡	実	1	4	4	1	0	1	2	2	0	2	0	0	17
	延	1	4	5	1	0	1	3	2	0	2	0	0	19
その他	実	0	0	0	0	0	0	7	5	6	0	0	6	24
	延	0	0	0	0	0	0	24	18	18	0	0	24	84

7 うららかキッズガーデン

4月当初3名からのスタートとなり、うららか保育園と連携をとるとともに広報活動やPC・携帯電話からの検索で知ったと一時保育利用申し込みが多くなってきた。

10月からは、「さくらサーカス（開催期間R4.9.17～R5.1.15）」の子ども達の入所が決まり、11月からは計7名の入所児童となり、楽しく過ごすことができた。

保護者とは情報交換を密に行い、生活習慣や発育について個々に応じた支援を行う事ができ、次年度にもつなげていきたい。

事業所特性でもある高齢者との交流は、昨年に続き新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。次年度に向けて少しずつ交流ができていけたらと思う。

入所児童数（定員 11 名）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職員	0歳												
	1歳												
	2歳												
地域	0歳	1	1	1	1	1	1	3	5	5	5	3	3
	1歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		3	3	3	3	3	3	5	7	7	7	5	5

個々の健康状態や子供の様子を見て、日々の計画や保育士の配置を変更するなど柔軟な保育を行った。

保護者とは、送迎時の会話や連絡帳を通して園での様子を細かく伝え、育児相談を受けることも多く保育士として専門性を生かした助言や個々に応じた支援を行うことができた。

職員間では、月 1 回の職員会議、毎日のミーティング、伝言ノートを活用して共通理解を図った。

研修参加状況（外部）

月	開催地	研修会名	研修内容	主催者	参加人数
4	高知市	第 1 回乳児保育研修	乳児の保育・保健・栄養の基礎知識の習得	高知市保育幼稚園課	1
4	〃	令和 4 年度事業概要説明会	子ども子育て支援新制度・施設向けの支援	〃	1
6	〃	プール管理講習会	プールの安全と衛生管理	〃	1
6	〃	第 2 回乳児保育研修	乳児期の心身の育ちについて	〃	1
7	〃	アレルギー対応研修	アレルギー児の保育を安全に行うために必要な基礎知識の習得	〃	1
10	〃	救命救急講習会	事故発生防止（予防）のための取り組み	〃	1

高知県キャリアアップ研修

保健衛生・安全対策研修	1名	6/2・7/22・8/2（全3回）
保護者支援・子育て支援	1名	6/7・9/14・10/25（全3回）
制度や政策の動向	1名	7/27・8/3・8/23（全3回）

研修参加状況（内部）

月	開催地	研修会名	主催者	参加人数
11	施設内	感染対策勉強会	感染予防対策委員会	5

意見対応

令和4年度意見受付対応件数 0件

意見・苦情ではないが、令和4年度3月上旬に次年度4月より延長時間の変更があるむねを、お伝えしたところ、少し不愉快な表情だったので、ご迷惑をお掛けすることを丁寧にお詫びし、ご理解いただいた。

8 各種委員会活動

事故防止委員会

【介護事故件数】 ※行政報告対象外

	事故件数	ヒヤリハット
特養	115	42
ショート	2	
デイ	3	

【重大事故件数】 ※行政報告対象

	重大事故	転倒		離設	誤薬	異食
		骨折	受診を要する状態			
特養	17	8	5		4	
ショート	2			2		
デイ	3	2			1	

事故件数としては前年度と比較し大幅に増加している、ヒューマンエラーも介護中の事故を含むと増加している。同一事故に至ったケースや原因究明に至らなかったケースもある。安心して生活できる環境や認知症ケアを向上させる目標は、今後も大きく課題を残す形となった。事故を未然に防ぐ視点で取り組みを行い、今後はそれらをもとに課題を改善へと繋げたい。

特養 事故総数 115 件（内 行政報告 17 件） ヒヤリハット 42 件

デイ事故 3 件（行政ではない） 行政事故 3 件

ショート事故 行政事故 2 件

感染予防対策委員会

活動内容：毎月 感染委員会の開催

4月 年2回の研修期間と方法について

施設でノロ感染症発生事案内容

5月 法人の感染対策防止内容確認

感染対策の手引書配布

6月 長い坂の会コロナ感染防止の内容確認

利用者4回目コロナワクチン接種状況

7月 長い坂の会コロナウイルス感染防止（Ver20）内容確認

内部研修実施

- 8月 開催なし
- 9月 長い坂の会コロナウイルス感染防止 (Ver21)
9月7日より陽性者療養期間見直しで、7日へ短縮
- 10月 汚染回収の仕方で、清潔と不潔の区別がない
下半期の全体研修について
- 11月 全職員対象の感染研修
- 12月 令和4年度上半期感染予防対策委員会報告
- 1月 感染性胃腸炎（ノロ・ロタ）の発生時の職員対応について
インフルエンザ感染時の職員対応について
利用者1名コロナ陽性となり、現状N95マスク使用継続の必要性
- 2～3月 コロナの感染クラスター発生等により開催できず

研修実施：①「手洗い・手指消毒・防護服着脱・嘔吐物処理」の研修

参加者 84名 75%の参加率

②「感染症かも？と思った時の対応 ガウン着脱について」

参加者 84名 75%の参加率

取り組み：

- 高知市実地指導により、口頭指導を受けた衛生管理の遵守と強化を図るため、職員会を開催し課題の共有と早期の改善を図った。
- 食中毒予防の観点から、調理関係者を含む施設管理体制の見直しを図った。次年度も継続して行っていく。
- 尿路感染症の予防のため、水分摂取と清潔保持の取り組みを多職種協働で行い、情報の共有、評価を行うよう取り組みを継続する。

身体拘束・虐待防止委員会 <実施内容報告>

月	内容
4月	開催なし
5月	年間委員会予定表配布。今後の委員会の在り方について指針の見直しを行い、委員会メンバーで指針を意識して取り組む方針であることを施設長よりメンバーに周知する。
6月	マニュアルの改訂にむけて修正箇所確認、内部研修についてはネット配信サービスでの研修を思案。
7月	8月より、毎月テーマを決めて、不適切ケアについて事例を出し、解決策、適切な対応について検討することを決定。
8月	不適切ケアテーマ：『食事』
9月	Eランニング導入システム利用決定（内容確認） 不適切ケアテーマ：『排せつ』

10月	ジョブメドレーアカデミーを利用した内部研修を行う。 「新対応速・虐待防止研修」10月18日～開始 不適切ケアテーマ：『入浴』
11月	不適切ケアテーマ：『更衣』
12月	不適切ケアテーマ『口腔ケア・整容』 虐待ケース発生。施設長指示に基づき、情報収集、緊急検討会開催。
1月	不適切ケアテーマ：『身体介護・起居動作』 12月に起きた虐待事例についての報告。詳細話し合い。 委員会メンバーで職員への周知等対応策検討 実地指導からの指摘内容施設長より報告。 不適切ケア8月～1月までの意見まとめマニュアル化。
2月	1月委員会に出た職員間での不適切ケア防止案について話し合う。 「虐待防止研修」2月1日～2月15日 オンライン動画研修「介護施設における虐待」
3月	不適切ケアマニュアル化について周知。 常に手をなめられる方の対応方法について検討。

「不適切ケア」3件

- ① 本人からの訴え。ご利用者の介助時、ご利用者のタイミングに合わせた介護でなく、職員サイドの介助になっていたことから、ご利用者に恐怖心を与えた。
- ② 本人からの訴え。排泄後の更衣の介助中ご利用者の腕を強く引っ張った事よりアザが出来てしまい、嫌な思いをさせた。
- ③ ご利用者「自分で着られるだろう」と言い、服を本人に向けて投げつける。

「虐待」1件

- ・ 食事介助中、少しずつしか食べられないご利用者に対して、食事を強引に口の中に入れる介助を行い、乱暴な言葉づかいでご利用者の心を傷つけるような発言をしたことにより、身体的虐待と、精神的虐待に当てはまるとされた。

虐待の認定を受けたことにより、職員全員に周知。早急に研修を開催、虐待防止に対する意識の向上に努めた。

褥瘡予防委員会

ご利用者の予防ケアに取り組んだ結果、褥瘡者はなし。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
褥瘡者	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

災害対策委員会

今年度も災害訓練は地域共催ができなかったが、9月に災害対策委員が中心となり施設内にて災害ワーキングを行った。避難所開設訓練等を行い、災害時における避難所としての課題を改めて確認することができた。

安全衛生委員会

今年度は、職場内巡視に重点を置き、職場環境の改善を行うことができた。

巡視者は、産業医、衛生管理者以外に委員メンバーを選任し、自部署以外の職場環境を客観的に観察、評価し、改善の内容を共有し施設全体での取り組みができた。労働災害は、業務災害1件であった。

[3] 在宅介護センターわかくさ関連事業

1 デイサービスセンターくつろぎの家

【サービス】

感染防止対策を講じた上で、職員同士話し合い、ご利用者に楽しんで頂ける様に工夫し季節に合わせた行事を実施した。全体では、オリジナル体操やかみかみ百歳体操をご利用者に無理ない範囲で提供し身体機能維持・向上に努めた。生活リハビリとして、洗濯物たたみやコップ洗い等を行い、積極的に参加して下さる方も多く、個々の役割と意欲向上に繋がったと考える。

個別活動面では、塗り絵や折り紙、毎月のカレンダー作り等を職員と一緒にやる事で、ご利用者と職員のコミュニケーションも図る事ができ、ご利用者との信頼関係の構築にも努めた。集団レクリエーションでは、主にホワイトボードを活用しご利用者同士で相談しながらできるレク等を準備しご利用者同士の交流が深まる場の提供を心掛けた。しかし、提供するサービスの統一が出来ていない、個々のニーズに合わせた機能維持訓練が行えていないという問題があり来年度の課題である。また、毎月行っていたバイキングは、利用者数の減少と食品ロス削減の為、現在、2か月に1回に変更しているが、ご利用者から「バイキング今月はないの？」等楽しみにして下さっている声も聞かれている為、以前の様に毎月行うことも課題解決と並行して検討していく。引き続きご利用者の状態を把握し、職員同士での情報共有等を密に行い、在宅での生活を継続出来るようサービスの統一に努めると共に、ご家族やケアマネージャーへ状態報告等の連絡を密に行い早期受診に繋げ入院等を未然に防ぐ事も心掛ける。来年度もくつろぎの家を選んで頂ける様、選んで良かったと思って頂けるよう、ご利用者やご家族との信頼関係を築いていかなければならない。

【運営】

1日平均が20名に達した月はなく、目標より大幅に少ない結果となった。原因として季節の変わり目等で、体調不良となり長期入院になる方、コロナウイルス感染予防対策にて休まれる方がおり、新規利用者が入るも稼働率がほとんど上がる事はなかった。体験利用が可能となってからは、体験利用から新規利用へ繋がる事もあったが、利用に繋がらないケースもあった為、何故繋がらなかったのか原因を知り改善していくことが稼働率向上に必要である。

【要介護度別】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	13	12	12	12	13	13	12	12	12	11	14	16	152
要介護2	12	14	13	14	12	12	13	13	14	14	11	11	153
要介護3	5	4	4	5	4	3	4	5	4	6	4	4	52
要介護4	8	8	9	9	10	9	9	8	7	7	7	6	97
要介護5	5	5	5	3	4	4	4	3	2	3	4	3	45
合計	43	43	43	43	43	41	42	41	39	41	40	40	499
1日平均	16.7	16.6	16.5	16.9	16.6	15.1	15.7	15.9	13.6	15.1	15.5	16.4	15.8

平均介護度	2.5	2.5	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.3	2.4	2.4	2.2	2.5
-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

【総合事業延利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	4
要支援2	3	2	2	2	2	2	2	2	1	0	0	0	18
合計	3	2	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	22
1日平均	0.4	0.9	0.4	1.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.6

【職員研修報告】

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	事業計画	
5月	リモート勉強会 「介護保険 身体拘束・虐待について」	
6月	リモート勉強会 「食中毒について」	
7月	勉強会(感染予防にて中止)	
8月	勉強会(感染予防にて中止)	
9月	リモート勉強会「ハラスメントについて」	
10月	リモート勉強会「季節感染症について」	
11月	リモート勉強会 「介護関係者に知ってほしいタバコの基礎知識について」	
12月	リモート勉強会「ハラスメントについて」	
1月	リモート勉強会「事例検討会」	
2月	勉強会(感染予防にて中止)	社会福祉施設総合保険 制度説明会 (西山)
3月	リモート勉強会「事業継続計画について」	

【行事等】

4月	誕生日会・創作・バイキング
5月	誕生日会・創作・バイキング・母の日
6月	誕生日会・創作・バイキング・父の日
7月	誕生日会・創作・バイキング
8月	誕生日会・創作・バイキング
9月	誕生日会・創作・バイキング・敬老会
10月	誕生日会・創作・バイキング・焼き芋
11月	誕生日会・創作・バイキング・ミニ運動会
12月	誕生日会・創作・バイキング・年忘れ会
1月	誕生日会・創作・お正月

2月	誕生日会・創作・バイキング・節分
3月	誕生日会・創作・お花見

2 デイサービスセンターわかくさの家

【サービス】

本年度は、職員、利用者の顔触れが大きく変わった一年であった。環境の変化による利用者の状態に注意し、ケアの統一を日々のミーティング・運営検討会にて行った。新しい職員への指導・状態が変わっていくご利用者の介助方法についても初心に帰る事・自分ならどういいう指導や介助を受けたいのかを考えながら業務にあたるよう職員一同心掛けた。ユマニチュードについても理解を深め、日々の関りを大切に、馴染みの関係を築き「笑顔」の場となるように努めた。在宅生活を支えて下さっているご家族に対しても、情報共有は密に出来ており、ご家族の小さな変化にも気づくことができた。すぐに職員間で共有し、話を聞く事・労いの言葉を忘れず心のケアにも努めることができたように思う。今後もご家族の変化に気づけるわかくさの家を目指し、ご家族が健康に介護ができる様お手伝いをさせて頂きたい。

職員研修では、感染症流行に伴い中止となる事もあったが、外部講師をお招きし新しい知識を得ることができた。

【運営】

ご利用者が数名コロナに感染し、その影響で利用を控えたい方や悪天候でのサービス中止もあり稼働率が著しく低下した。自他居宅への空き状況配布を行い、連絡を行うも外部居宅からの新規依頼は一件のみであった。次年度は広報活動にもより一層力を入れ、今までと違った新しい形でアピールできる方法を職員間で検討しわかくさの家が選ばれる事業所となるよう取り組み、稼働率の安定を図りたい。

【行事等】

4月	誕生日会・クッキング・創作
5月	誕生日会・クッキング・創作
6月	クッキング・創作
7月	誕生日会・クッキング・創作
8月	クッキング・創作
9月	誕生日会・クッキング・創作・敬老会
10月	誕生日会・クッキング・創作・ミニ運動会
11月	誕生日会・クッキング・創作・介護の日
12月	誕生日会・クッキング・創作・クリスマス会
1月	誕生日会・クッキング・創作・お正月行事
2月	誕生日会・クッキング・創作・節分行事
3月	誕生日会・クッキング・創作・年度末プレゼント

【要介護利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	4	4	5	6	6	6	7	7	7	7	6	7	72
要介護2	4	5	5	5	4	5	5	4	4	4	4	4	53
要介護3	5	5	6	6	6	6	5	5	4	3	5	5	61
要介護4	2	4	4	4	3	3	3	3	4	3	3	3	39
要介護5	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
合計	17	18	21	21	19	20	20	19	19	17	18	19	228
1日平均	9.0	9.1	10.2	9.8	10.2	10.0	9.6	10.2	7.8	7.8	8.3	9.2	9.3
平均介護度	2.7	2.5	2.6	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.3	2.1	2.3	2.2	2.3

【職員研修会】

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	事業計画	
5月	リモート勉強会 「介護保険 身体拘束・虐待について」	
6月	リモート勉強会 「食中毒について」	
7月	勉強会（感染予防にて中止）	
8月	勉強会（感染予防にて中止）	
9月	リモート勉強会 「ハラスメントについて」	
10月	リモート勉強会 「季節感染症について」	
11月	リモート勉強会 「介護関係者に知ってほしいタバコの基礎知識について」	
12月	勉強会（感染予防にて中止）	
1月	「介護現場における介護従事者が利用者や 家族から受けるハラスメントについて」	
2月	勉強会（感染予防にて中止）	社会福祉施設総合保険 制度説明会（西尾）
3月	リモート勉強会 「事業継続計画について」	

3 小規模多機能型居宅介護わかくさ

本年度も新型コロナウイルス感染症等に対する感染予防対策を遵守する為、大きな行事等は中止となったが、事業所内では職員のレクリエーションチームと身体機能維持チームの取り組み継続により、楽しみや、やりがいにつながる活動が出来ていたと感じる。少人数で換気をし

ながら桜の花見ドライブに出掛け、外出する機会も作れた。

感染対策遵守に努めたが、8月にはご家族が感染経由となったご利用者のコロナウイルス感染が発生し、10日間のサービス縮小を行った為、ご利用者、ご家族には大きな不安とご迷惑をお掛けする事となった。来年度はコロナウイルスも5類に移行し徐々にコロナ禍前の状態に戻る事が予想されるが、身に付けた感染予防対策を活かし、ご利用者、ご家族が安心して利用継続出来る様に努めたい。

今年度の後半には感染予防対策によるセンターの立ち入り制限も一部緩和され、行えていなかった運営推進会議も行う事が出来た。来年度は希薄となっていた地域との関係性を再構築出来る様、感染予防対策を継続しつつ、地域行事等にも進んで参加したい。

経営面では1ヶ月を超える入院が数名あった事と平均介護度が下がった為、前年度と比較し下がっている。要因として1ヶ月を超える入院に関しては、入院先の病棟でコロナ感染者が発生し退院を見合わせた方や、入院先でコロナ感染症に感染してしまい入院が延びてしまった方がおり、本来であれば1ヶ月以内に退院出来ていた事例が多かった。平均介護度が下がった原因としては、要介護度の高い方の登録解除が多くあり、待機者数は安定しているものの介護度の低い方が多くなっている事が考えられる。出来る限り空き日数を作らない様に待機者の中から介護度の高い方を優先し登録に上げる努力はしてきたが、通所中心のサービスや訪問中心のサービスを希望される方が多く、サービスのバランスに偏りが発生し、登録に空きがあっても希望するサービスに対応出来なくなり空きのあるサービスに希望の当てはまる介護度の低い方を登録に上げた事も一因している。来年度は、先ず、ご利用者の入れ替わりの際にサービスのバランスを整えていく事に努める。また、比較的、介護度の高いご利用者の紹介率は医療機関が高い為、多くの地域連携室や多方面の居宅との密な関係性を築き、待機者の充実を図りたい。

行 事

4月	ドライブスルー花見（車内換気を行い少人数でドライブ） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）	10月	新型コロナウイルス感染予防にて 行事等自粛 防災訓練（自主訓練） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）
5月	新型コロナウイルス感染予防にて 行事等自粛 運営推進会議（センター外部立ち入り禁止にて行えず） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）	11月	新型コロナウイルス感染予防にて 行事等自粛 運営推進会議（センター外部立ち入り禁止にて行えず） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）
6月	新型コロナウイルス感染予防にて 行事等自粛 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）	12月	新型コロナウイルス感染予防にて 行事等自粛 運営推進会議（第1回） クリスマス会（各事業所にて感染対策を行いながら催す） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）
7月	新型コロナウイルス感染予防にて	1月	新型コロナウイルス感染予防にて

	行事等自粛 運営推進会議（センター外部立ち入り禁止にて行えず） 納涼祭（中止） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）		行事等自粛 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）
8月	新型コロナウイルス感染予防にて 行事等自粛 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）	2月	新型コロナウイルス感染予防にて 行事等自粛 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）
9月	新型コロナウイルス感染予防にて 行事等自粛 運営推進会議（センター外部立ち入り禁止にて行えず） 敬老会（各事業所にて感染対策を行いながら催す） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）	3月	新型コロナウイルス感染予防にて 行事等自粛 運営推進会議（第2回） 誕生会（感染対策を行い事業所内で実施）

介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
要介護1	6	6	8	7	7	7	7	7	7	7	6	6	81
要介護2	8	8	8	8	8	10	8	8	9	9	9	8	101
要介護3	9	10	9	8	8	9	8	8	7	6	5	6	93
要介護4	6	5	5	5	5	4	4	4	4	6	7	8	63
要介護5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	22
計	31	31	32	30	30	32	29	29	29	31	29	30	363
平均介護度	2.67	2.64	2.53	2.56	2.56	2.50	2.51	2.51	2.48	2.56	2.57	2.65	2.56

機能別延利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通い	437	419	412	451	295	393	466	430	350	385	401	482	4921
訪問	801	827	699	833	788	779	858	701	599	510	605	696	8696
宿泊	129	105	90	94	47	89	83	81	84	77	88	114	1081
計	1367	1351	1201	1378	1130	1261	1407	1212	1033	972	1094	1292	14698

研修報告（内部・外部）

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	リモート勉強会（事業計画について）	
5月	リモート勉強会（身体拘束・虐待） リモート伝達研修	ヘルパー全体研修（ウェブ講座1名）
6月	新規採用者研修（4名） リモート勉強会（食中毒について）	自立ケア研修（ウェブ講座1名）
7月	リモート勉強会（コロナウイルス感染予防にて中止）	
8月	リモート勉強会（コロナウイルス感染	

	予防にて中止)	
9月	リモート勉強会（ハラスメント）	
10月	リモート勉強会（季節感染症）	認知症実践者研修（1名）
11月	リモート勉強会（介護関係者に知って欲しいタバコの基礎知識）	
12月	リモート勉強会（コロナウイルス感染予防にて中止）	
1月	リモート勉強会（利用者・家族からのハラスメント）	
2月	リモート勉強会（コロナウイルス感染予防にて中止）	保険制度説明会（1名） 高知県虐待研修（ウェブ講座1名）
3月	リモート勉強会（防災とBCPについて）	

4 くつろぎの家 訪問入浴サービス

令和4年度における新規利用者は19名。今年度は、各居宅及び関係機関へ直接営業を行い空き枠状況を提示する事で徐々に依頼件数を増やし前年度と比較すると稼働率を向上させることができたが、ご利用者の発熱時に受診が困難な状態の方が多く、訪問時に解熱していてもコロナ感染対策に基づき入浴出来ない場合が多々見られた。

例年に比べ、ターミナルの依頼が少なかったように思う。その反面、コロナ感染に伴いADLが低下しその後、以前の様な生活が困難となり訪問入浴への依頼が増加した傾向が見られた。

また、近年、生活スタイルが変化してきている中でマンション上階の援助依頼が増えるも、センター周辺の依頼が激減。遠方からの依頼が多くルートや利用時間の調整等及び利用時間帯を限定せざるを得ない状況であった。

昨年度は訪問入浴職員の入れ替わりがあり利用者への安定したサービスを行う事が難しい面もあったが、今年度は更なる職員間の連携を図る事で離職を防ぎ徐々に安定した援助を行えるようになり、ご利用者個々の心身の状態に応じた介護を提供する事ができた。

介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	4
要介護2	2	3	6	5	6	2	2	4	8	6	5	6	55
要介護3	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
要介護4	31	29	35	37	34	34	28	29	17	16	16	21	327
要介護5	42	40	50	34	36	39	43	44	56	49	46	51	530
障害	4	2	3	3	4	4	3	3	2	6	8	7	49
計	84	77	94	79	80	79	76	80	83	78	75	88	973
1日平均	4.2	4.0	4.3	4.0	3.6	4.0	3.8	4.0	4.0	4.1	3.9	4.0	4.0
平均介護度	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.4	4.4

職員研修会

	内部研修・勉強会	外部研修
4月	事業計画	
5月	リモート勉強会 「介護保険 身体拘束・虐待について」	
6月	リモート勉強会 「食中毒について」	
7月	勉強会（感染予防にて中止）	
8月	勉強会（感染予防にて中止）	
9月	リモート勉強会 「ハラスメントについて」	
10月	リモート勉強会 「季節感染症について」	
11月	リモート勉強会 「介護関係者に知ってほしいタバコの基礎知識について」	
12月	勉強会（感染予防にて中止）	
1月	「介護現場における介護従事者が利用者や家族から受けるハラスメントについて」	
2月	勉強会（感染予防にて中止）	
3月	リモート勉強会 「事業継続計画について」	

5 高知市在宅介護支援センター あさくら（居宅介護支援事業所）

（1）心豊かな生活の表現

令和4年度は新型コロナウイルスの影響も和らいできており、新型コロナウイルスとも共存していくよう体制を取るサービス事業所やご利用者も見られるようになってきていた。サービスが停止すると身体機能の低下や介護者の介護負担増大する事もあって、少しずつ介護保険サービスの継続利用をされるご利用者も増えてきており、年度末にはコロナの影響でサービスの利用を見合わせていたご利用者も利用再開していく傾向もあり、各自それぞれが身体機能の低下防止と家族介護負担の軽減を重視出来ていた。

（2）介護支援専門員としての質の向上

事業所内での週1回の定例会は実施出来ています。困難なケースに関しては一人で悩まずに事業所内の主任介護支援専門員を中心に全員でケアマネジメントの方向性やサービスの適正を確認出来ていました。質の向上の研修ではコロナ禍という事もあり、開催される研修は少なかったですが、リモートでの参加等で積極的に参加する事が出来た。

(3) 関係機関との連携強化等

同センターに併設の朝倉地域包括支援センターと共にご利用者の相談に協力する事が出来ています。ご利用者の獲得も積極的に実施する事が出来ました。お互いの事業所にとって助かる部分もあり、連携が取れていたと思われまます。地域とのつながりの部分ではコロナ禍の事もあり、地域との交流の機会は少なくなっており、うまく交流が図れていない。というのが現状でしたが、朝倉包括からの依頼は昨年度より多く受け付ける事が出来ていた。

医療機関との連携の部分では入院中に本人に家族等もお会いする事が出来ず、サービスの調整がスムーズに出来ない事もあったが、リモートによる面会や事前病院 PT による家屋調査での申し送りを細かく報告して下さる事である程度、調整する事が出来ている。退院後に再度、アセスメントにより再調整する事も必要な事もあった。

(4) 新規利用者様の確保・相談援助

ご利用者の確保に関しては併設の朝倉地域包括支援センターからの依頼により、連携を取る事が出来ました。月平均で約 5 件～6 件程の新規利用者を支援させて頂く事が出来ています。令和 4 年度では積極的に新規依頼も受け付ける事が出来ており、稼働率アップする事も出来ている。

【介護度別請求件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護 1	65	66	69	71	74	77	74	78	82	82	92	99	929
要介護 2	40	44	43	44	45	45	48	48	44	45	54	49	549
要介護 3	31	31	30	28	31	31	30	32	37	37	39	36	393
要介護 4	20	21	22	22	23	23	20	16	15	14	16	18	230
要介護 5	9	9	7	6	5	5	5	5	6	8	10	10	85
計	165	171	171	171	178	181	177	179	184	186	211	212	2186
平均介護度	2.2	2.2	2.2	2.1	2.2	2.2	2.2	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.1
予防・総合	23	24	27	26	23	24	28	30	30	27	30	31	323
合計	188	195	198	197	201	205	205	209	214	213	241	243	2509

【職員研修等】

	内部研修	外部研修
4月	勉強会 「事業計画」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 (1名) 介護支援専門員定期総会 (1名)
5月	勉強会 「介護保険について・身体拘束/虐待」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 (1名)
6月	勉強会 「食中毒予防について」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修 (1名) 認知症ケアと地域包括ケア研修 (3名)

		地域ケア会議（1名）
7月	※コロナウイルス感染拡大により中止	認知症ケアと地域包括ケア研修（2名） 高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名）
8月	※コロナウイルス感染拡大により中止	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名）
9月	勉強会 「ハラスメントについて」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 介護支援専門員資質向上研修（1名）
10月	勉強会 「季節性感染症について」	多職種連携研修会（1名） 高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 地域ケア会議（1名）
11月	産業医の見える化 内部研修 「喫煙による健康被害」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 高知市ケアマネジメント研修会（1名）
12月	※コロナウイルス感染拡大により中止	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 難病学習会（5名） 地域ケア会議（1名） 複数事業所事例検討会（5名）
1月	勉強会 「利用者・家族からのハラスメント」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名）
2月	※コロナウイルス感染拡大により中止	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） 難病学習会（2名）
3月	勉強会 「防災とBCPについて」	高知市居宅介護支援事業所西部ブロック研修（1名） ケアマネジメント基礎研修（1名）

6 高知市朝倉地域包括支援センター

【総括】

令和4年度も令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、地域活動の展開が思うようにできにくい一年となった。感染が下火となっている時期には、感染対策に留意し地域に出向き住民活動の支援を行い、地域における相談窓口としての周知を目指した。

① 総合相談・支援

地域住民や関係機関からの個別相談には、介護保険だけでなく、さまざまな制度や地域資源の活用等を職員間で協議しながら、よりよい支援が行えるように努めた。

令和3年度の相談実人数1,365名、対応延べ件数8,323件であったのに比較し、令和4年度は相談実人数1,392名、対応延べ件数8,960件で微増の状況であった。毎年、一定の相談があがってくるようになっており、住民や関係機関に対し、地域包括の周知ができてきたのではないかと感じている。

② 権利擁護事業、高齢者虐待防止支援

高齢者虐待防止・権利擁護のために地域住民への普及啓発活動がまず必要かと、啓発活動に取り組むことにしていたが、地域活動の制限がある中では難しく、地域住民への啓発は2回しか実施できなかった。

令和4年度虐待疑いの通報受理・対応件数は11件。虐待認定された件数8件。虐待ケースの支援については、基幹地域包括に報告相談しながら対応、事例を重ねながら対応力向上に努めている。

③ 地域の関係機関との連携とケアマネージャー支援など

個別ケース支援を通じ介護支援専門員や医療機関との連携や協力体制強化に努めた。介護支援専門員支援対応は年間延べ256件。

在宅介護医療連携推進としては、入退院引継ぎルールに関する研修会に参加、連携に関する課題の提言を実施した。

④ 認知症総合事業、生活支援体制整備事業、地域ケア会議の開催

認知症初期集中支援チーム員として西部ブロックの会議に毎回出席。事例2件提出。また、今年度認知症初期集中支援チーム員研修に参加させていただき、チーム員としてのスキルアップに努めた。

認知症啓発のサポーター養成講座・学習会等での住民への啓発活動は、集合開催がコロナ禍のためしづらく、5回開催目標であったが2回の実施しかできなかった。

生活支援体制整備事業としては、第二層協議体の取り組みとして朝倉第二小学校区地域内連携協議会地域課題把握部会定例会に毎回参加、地域課題の把握～解決策抽出を住民と共に検討した。グループワークを実施することにより地域の課題把握ができたので、来年度、解決策の事業化へ住民と共に取り組む。

地域ケア会議は2か月に1回の定期開催予定であったが、コロナ禍で中止となったため、6回予定が定期3回、随時1回の計4回の開催。地域ケア会議開催後には、ブロック会で地域ケア会議推進事業として関係機関と地域課題の整理を行った。

7 生活援助員派遣事業（シルバーハウジング若草町）

若草南町の市営住宅内のシルバーハウジングの入居されている方を中心に、日常的な相談や介護の相談、安否の確認等を関係機関と連携をとりながら活動を行ってきた。

コロナ禍での訪問対応は、感染対策を行いつつ、安否確認等を行った。

令和4年4月からの新緊急通報システム導入に伴い、通報装置の入替工事を行った。

○活動内容

生活指導 ・相談	安否の確認	一時的な 家事援助	緊急時の 対応	関係機関 との連絡	その他
12件	1,171件	4件	17件	21件	208件

緊急通報・・・誤作動（0件）

緊急対応（3件）

緊急対応	3件	<ul style="list-style-type: none">・ 自宅にて転倒し、胸の痛みがあり、救急車を要請する。・ 体調不良により倒れ、意識はあるが、救急車を要請する。・ 自宅にて転倒、膝の痛みがあり、本人が救急車を要請。搬送の為、解錠を行う。
------	----	---

Ⅲ 児童福祉関連事業

令和4年度4月、新入園児14名を迎え定員130名に対し園児数119名でスタートした。年度途中で0歳児12名、1歳児1名、4歳児1名、総数14名を受け入れ、年度末の園児数は133名となった。途中入園は、園児の兄弟児の受け入れがほとんどである。

これまでは、園に近い南ヶ丘、蒔絵台の新興住宅地から通園する家庭がほとんどであったが、次第に保護者の勤務先の近隣という理由で、長浜、神田、朝倉方面等から通園する家庭も増えている。

今年度も、新型コロナウイルス感染防止に努めながらの保育であった。行事については、昨年同様、時間の短縮、乳児組・幼児組分散しての開催、参観者への感染防止対策の徹底、参観人数の制限により実施した。中でも、室内での行事となる参観日は密集となるため中止した。保護者が楽しみにしている行事の一つである発表会は、昨年は無観客で実施し保護者にはDVDを介して子どもたちの成長や園の様子を届けた。今年度は、参観人数を制限した中で例年通りピアステージで開催し、保護者から感謝や労いの言葉、手紙が寄せられた。

今年度、春野東小学校は文部科学省が推進する「保幼小の接続のあり方を見直し、幼児期からのつながりのある教育の実現を目的とした”保幼小架け橋プログラム”」のモデル校となった。本園もモデル地域にある園として共同し、他園や小学1年生と定期的に交流した。コロナ禍により地域交流が充実できない中での交流会を年長児は楽しみ、小学校就学に向けた心がまえができた。

また、保護者のニーズに応じた「一時保育」「病児保育」「子育て支援センター」「放課後児童クラブ(3か所)」を実施し、子育て支援に努めた。

〔1〕 うららか保育園 関連事業

1 うららか保育園

基本方針、保育目標、めざす子ども像を念頭に置き、「保育」「食育」「発育」の3つの育ちに努めた。毎日の朝ミーティング、月2回の報連相の会(職員会)、乳児・幼児部会により、多職種連携のもと、子ども一人一人の特性や背景などの情報を共有し保育に反映した。

「保育」一月齢、年齢に応じた環境構成をこころがけ、遊びや体験を通して健康なからだづくりと情緒の安定をはかるよう努めた。四季折々の行事をはじめ、誕生会、お点前(年長児)、英語で遊ぼう(年長・年中児)、学研教室のまなびタイム(年長児)などを計画し実施した。

年長児においては、”保幼小架け橋プログラム”のめざす子ども像「主体的にチャレンジし、学びを将来につなぐことができる子ども ～学びの芽生え・学力向上に向けて～」を日々の保育活動の中で意識して取り組み、子ども同士探求する姿や協調する姿がみられた。保護者には、「園だより」「クラスだより」を月1回配布し、保育の様子や子どもたちの姿等を伝えた。

「食育」－献立において、栄養のバランスや咀嚼力を高める食材の活用、素材の味を生かした食事の提供、食材の安全性や品質などの検討を毎月行った。アレルギー除去対象児に対しては、主治医の指示書に基づき、看護師、調理員、保育士が密に連携し誤食防止に努めた。これまでは、調理員が子どもの食の関心を高めるとともに、食物の恵みに感謝する心を育むための食育教室を定期的実施していたが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により実施できなかった。

「発育」－身体測定（2カ月毎）、内科・歯科健診（年2回）、尿検査・視力検査（幼児組年1回）を実施し家庭に結果を報告した。口腔衛生については、4歳児、5歳児クラスで昼食後にフッ化物洗口を行い齲歯防止に努めた。感染症に対しては、室内の環境整備、手洗い・手指消毒の徹底、登園時の体調観察を行うとともに、園独自の「保健だより」を発行し、園の保健衛生に関する情報を発信した。保育中に発熱や嘔吐・下痢などの症状がみられた場合、児を体調不良対応室で看護師が保護者の迎えまで看護し、児の体調の変化に留意しながら安静保持に努めた。

リスクマネジメントについては、今年度も「保育中の怪我や事故の防止」「睡眠中の乳幼児突然死症候群（SIDS）予防」「災害への備え」の3点を重点に取り組んだ。

「保育中の怪我や事故の防止」－今年度、2件の重大事故が発生したが、いずれも受傷直後すみやかに対応し経過は良好で、保護者への細やかな報告・謝罪によりトラブルなく解決できた。保育室内や屋外の危険箇所や死角を確認し、保育士が配置して安全確保に努めていたが、子どもの予測できない行動や他児の対応等で十分に目配りできない状況下で怪我、事故が発生した。保育中の怪我や友だちとのトラブル等については、事の大小にかかわらず保護者に報告、謝罪した。

「睡眠中の乳幼児突然死症候群（SIDS）予防」－乳児は入園から2週間は慣らし保育をお願いし、子どもの環境の変化によるストレス除去に努めた。また、入眠中は15分毎に呼吸、体位、顔の向きを観察・記録し事故防止に努めた。

「災害への備え」－突然の火災や地震・台風などの自然災害に備え、月1回、避難訓練の実施や備蓄の確認及び補充、保護者向けに災害伝言ダイヤル171体験の実施を行った。また、交通安全については、警察の協力のもと、幼児クラスを中心に交通安全教室を実施した。しかし、コロナウイルス感染防止のため、保護者を含めた災害発生時の緊急連絡カードに基づく園児の引き渡し訓練、防犯訓練の実施は見送った。

職員の資質向上のための研修は、次第に会場集合型が増え、内容に応じて職員を研修に参加させ個々のスキルアップをはかった。公開保育では、新人保育士2名が臨み、意見交換や討議により、個々の視点の違いから学びを深めたり、情報を共有・共感することにより保育のあり方を検討し若手保育士の育成に努めた。

実習は、保育実習1名、小児看護実習22名、職場体験実習3名を、健康観察、感染予防対策を綿密に行ったうえで受け入れた。

保護者会活動は、例年通りの実施が困難な状況ではあったが、保護者の協力により規模の縮小、参加人数の制限等をはかり実施できた。

園児入園状況と園児数（定員130名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	6	6	6	9	12	12	12	14	15	15	16	18
1歳児	18	18	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
2歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
3歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
4歳児	20	20	20	20	20	20	20	21	21	21	21	21
5歳児	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33
合計	119	119	120	123	126	126	126	129	130	130	131	133

保育日数

土曜日（7:30～19:00）を土曜登園として実施しており、実質の休日は日曜・祝日および年末年始(12/30～1/3)である。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
日数	25	23	26	25	26	24	25	24	24	23	22	26	293

主な行事報告

月 日	行 事 名	月 日	行 事 名
4月1日(金)	入園式・始園式	12月27日(火)	クリスマス会
4月9日(土)	親子遠足		保幼小架け橋プログラム交流会
6月21日(火)	プール開き 神事	1月28日(金)	～一日体験入学～
7月29日(金)	年長 野外活動(仁淀川)	2月3日(金)	節分集会
10月8日(土)		2月18日(土)	第21回発表会
10月30日(月)	第21回運動会	2月22日(水)	マラソン
11月11日(金)	保幼小架け橋プログラム交流会	3月6日(月)	年長児 交通安全教室
11月26日(土)	秋の遠足	3月10日(金)	お別れ遠足
11月30日(水)	秋まつり	3月24日(金)	修了式・お別れ会
12月9日(金)	保幼小架け橋プログラム交流会	3月25日(土)	第21回卒園式
12月20日(火)	お餅つき 交通安全教室		

毎月一誕生会、避難訓練、お点前（年長）、英語で遊ぼう（幼児組）、まなびタイム（年中・年長）

保健関係

内 容	実 施 日
尿検査	幼児組 4月25日(月)
内科健診	春季－5月9日(月)、23日(月) 秋季－10月17日(月)、24日(月)
歯科健診	春季－6月15日(水) 秋季－11月9日(水)
視力検査	幼児組 11月14日(月)、21日(月)

2ヶ月毎一身体測定（0歳児のみ頭位測定を含む）

体験学習・保育実習等受け入れ状況

学 校 名	月 日	人数
高知中央高等学校衛生看護専攻科 小児看護実習	5月11日～6月14日 12月21日～12月27日	22名

高知県立春野高等学校 インターンシップ	7月25日～7月27日	3名
高知学園短期大学 保育実習Ⅱ	11月7日～11月19日	1名

2 うららか保育園 特別事業関連

子育て家庭および就労の保護者のニーズに応じ、「延長保育（19時まで）」「一時保育」「子育て支援センター」「病児・病後児保育」「体調不良児対応型保育」を実施し、育児の不安解消や負担軽減につとめ親支援を行った。

(1) 延長保育事業（利用時間 18時30分から 19時）

補助金対象外で利用料金（2,000円/月）のみの集金収益で、月平均10名ほどの利用があった。

(2) 一時保育（クローバー）

保護者の育児による精神的・肉体的疲労の解消、急病や断続的・短期的就労等の理由により一時的に保育が必要な未入園児を預かった。

年度初めは、入園により一時保育の利用は少なくなる中、他園の一時保育事業の廃止により、万々や一宮方面からの利用もあった。

利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用延人数	51	35	42	35	30	53	50	53	39	46	53	52
平均利用数	2.6	1.8	1.9	1.8	1.4	2.7	2.5	2.7	2	2.1	2.8	2.5

(3) 子育て支援センター「うららかなかよし広場」

新型コロナウイルス感染対策として、来所時の検温及び体調確認をはじめ、午前・午後とも4組までの予約制で開所した。

育児講座は、助産師、保健師、栄養士の外部講師による相談会や保育園看護師による毎月の身体測定、救急法の勉強会など子どもの健康や発達に関する内容から、リラクゼーション、アクセサリー作りなど保護者の興味的なイベントを計画・実施した。講座は、定員を超える申し込みがあり、できる限り多くの方に参加してもらえよう二部制にして行った。

なかよし広場の様子は、日々InstagramにアップしてPRした。現在のフォロワー数は254人となっている。今後、活動内容のアップ方法を工夫し、フォロワー数、来所者数を増やしていきたい。

育児講座等の実施

月	内 容
4月	お花見遠足 離乳食教室(栄養士) リップクリーム作り
5月	育児相談(助産師) パパママが楽しく話しかける英会話 歯固め作り
6月	ベビーマッサージ 身体を動かして遊ぼう

7月	七夕飾りを作ろう	は・は・はの話し(歯科衛生士)	ベビーマッサージ
8月	育児相談会(保健師)	ランタン作り	
9月	スクラップブック	プラ板製作	
10月	離乳食教室(栄養士)	スマホフォト講座	ハロウィン製作
11月	育児相談会(助産師)	気軽にリラクゼーション	クリスマスリース作り
12月	しめ縄作り	お餅つき	
1月	気軽にリラクゼーション	マスクストラップ作り	
2月	節分製作・節分集会	育児相談会(保健師)	
3月	気軽にリラクゼーション	防災に備えよう	

・毎月の行事ーよちよちランド・身体測定

利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開放日数	21	18	22	20	18	12	21	20	19	18	8	18	215
参加延組数	153	110	168	170	79	177	198	215	147	141	128	208	1894

(4) 病児、病後児保育事業（ラベンダー）

病時保育室の利用定員は3名であるが、利用児の病名が異なる時は利用できないためお断りすることが往々にあった。

コロナ禍の2年間は、日常の中で感染防止対策が徹底されていたことからインフルエンザウイルス感染症の罹患がほとんどない状態であった。しかし、今シーズンはインフルエンザウイルスの流行による利用が増えた。疾患別では、風邪症候群（上気道炎、咽頭炎など）、胃腸炎による利用が半数を占め、季節を問わず多かった。

利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用延人数	7	15	16	11	9	29	27	3	17	23	12	39	208

疾患別割合

風邪症候群	36%
胃腸炎	21%
気管支炎	19%
インフルエンザウイルス	10%
RSウイルス	7%
その他 (蕁麻疹、中耳炎、突発性発疹等)	7%

(5) 体調不良児対応型病児保育事業（スイトピー）

保育中の急な発熱や体調不良による利用が主となる。保護者の就労によりすぐに迎えに来る事が出来ない園児の観察、安静の保持により利用するケースがほとんどであった。中には、登園中に家族の新型コロナウイルス感染が判明し、濃厚接触者となった児を隔離するために利用するケースもあった。

利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用 延人数	5	33	6	9	5	26	23	10	15	8	6	18	164

3 放課後児童クラブ

月1回定例会を持ち、各クラブの様子や、気になる児のかかわり方などを報告・相談し、児童とのかかわり方や児童クラブの運営の在り方を確認した。入学・進級の時期は、友だちとのトラブルやルールから外れた行動をとる児童がいたが、児童の特性を把握し、同じ姿勢で指導を継続することで次第に落ち着き、概ねクラブのルールを守って過ごすことができた。支援員には、新型コロナウイルス感染防止対策、熱中症予防や救急法について講習等を行い児童の健康管理と安全の確保に努めた。

発達障害など特別な配慮を要する児童に対して、加配指導員を配置している。こだわりの強さ、注意欠如・集中力散漫、多動などの特性の対応や保護者との連携において苦慮することがあった。障害の理解や児童一人一人の個性を尊重するかかわりにおいては十分とは言えないため、今後も研修や定例会を通して支援員のスキルアップをはかりたい。

南ヶ丘放課後児童クラブ 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	20	20	22	20	22	21	21	21	21	20	20	23
在籍者数	58	58	57	55	55	54	54	51	52	51	50	50
出席 延人数	1004	1022	1212	907	714	1018	1034	916	912	865	921	978

春野西小学校放課後児童クラブ 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	20	20	22	20	22	21	21	21	21	20	20	23
在籍者数	33	31	30	29	30	30	29	28	29	29	29	30
出席 延人数	563	539	592	476	394	500	527	513	485	481	498	537

春野東小学校南ヶ丘第一放課後児童クラブ 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	20	20	22	20	22	21	21	21	21	20	20	23
在籍者数	39	39	39	40	40	38	36	36	36	36	36	36
出席 延人数	635	617	697	587	555	582	596	584	566	542	582	648

4 研修参加状況

月	研修名(内容)	主催者	参加職種	参加人数
4	第1回乳児保育研修(会場・Zoom)	高知市	保育士・准看護師	4

	体調不良児対応型病児保育事業 担当看護師オリエンテーション	高知市	看護師	1
	保幼小接続に関する研修Ⅰ期	高知市	園長・保育士	2
	特別支援担当保育士等研修会	高知市	園長・保育士	4
5	高知県保育士会講演会	保育士会	園長・保育士	3
6	特別支援担当保育士研修会	高知市	保育士	2
	キャリアアップ研修(保健衛生・安全対策)	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(保護者支援・子育て支援)	高知県	保育士	1
	所長・園長研修 ステージⅡ-1	高知県	園長	1
	第1回地域子育て支援センター研修・交流会	高知市	保育士	1
	高知県保育士会 第1回主任部会	保育士会	主任保育士	1
	プール管理講習	高知市	看護師	1
	聴こえに関する研修	高知市	看護師	1
	病児保育事業の連絡会及び情報交換会	高知市	准看護師	1
	食育研修	高知市	栄養士	1
	親育ち支援保育者講話	保育士会	保育士	2
	服務の心得(若手職員の育成)	園内	勤務歴10年以上 の職員	10
	乳児保育研修	高知市	保育士	3
7	保育技術専門講座(発達障害等の理解と支援)	高知県	保育士	1
	特別支援加配保育士研修	高知市	保育士	1
	新規採用保育者研修	高知県	保育士	2
	地域子育て支援センター施設長研修	高知県	園長	1
	キャリアアップ研修(保健衛生・安全対策)	高知県	保育士	1
8	キャリアアップ研修(食育・アレルギー対応)	高知県	保育士	1
	新規採用保育者研修	高知県	保育士	2
9	高知県保育士会 第2回園長会	保育士会	園長	1
	園評価に関する研修	高知市	副主任保育士	1
	キャリアアップ研修(食育・アレルギー対応)	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(保護者支援・子育て支援)	高知県	保育士	1
10	第2回地域子育て支援センター職員研修・交流会	高知市	保育士	1
	放課後児童クラブ特別支援担当者研修会	高知市	児童クラブ支援員	2
	保育施設等における感染症対策	高知市	准看護師	1
	高知県保育士会研修Ⅳ及び第2回主任部会	保育士会	保育士	4
	児童虐待に関する研修	高知県	保育士	1
	キャリアアップ研修(保護者支援・子育て支援)	高知県	保育士	1
11	特別支援加配保育士(D配置)研修会	高知市	保育士	1
	服務の心得(相手の立場を考えた対応)	園内	勤務歴5年未満 の職員	8
12	所長・園長研修 ステージⅡ-2	高知県	園長	1
	第3回地域子育て支援センター職員研修・交流会	高知市	保育士	1
	保育所児童保育要録について	高知県	保育士	2
	とっさの時の救急法	園内	全職員	27
1	吐瀉物の処理方法(感染拡大防止のため)	園内	全職員	27

	保育技術専門講座Ⅴ	高知県	保育士	2
	高知市保幼小連携・接続研修会	高知市	園長	1
	特別支援担当保育士研修会	高知市	保育士	2
	高知市病児保育事業の連絡会及び情報交換会	高知市	准看護師	1
2	放課後児童クラブ特別支援担当者研修	高知市	児童クラブ支援員	2
	第4回地域子育て支援センター職員研修・交流会	高知市	子育て支援員	1
	高知県保育士会 第3回園長会	保育士会	園長	1
	特別支援加配保育士(D配置)研修会	高知市	園長・保育士	2
	高知県保育士会第3回研修会	保育士会	保育士	1

Ⅲ 公益事業

[1] 介護福祉士養成施設 関連

1 平成福祉専門学校

国家試験合格 100%を目指し、例年学生が苦手としている制度・法律に関する科目や医療に関する科目を中心に講義と模擬試験を行い、理解度を高め、本年度の合格率は95.0%（20人中 19人合格）であった。残念ながら2点届かなかった学生も含め、非常に健闘した結果であり、次年度のサポート体制を整えたい。

校内授業では、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら対面授業を基本に行い、オンライン授業も用いて臨機応変に感染状況に対応し学習を進めた。

実習は、感染状況とリスク等をふまえ、1年生の在宅実習は法人内施設で実施し、法人外となる事業種別の実習については、特別講義に変更し、学習を深めることができた。2年生の第3段階実習（5週間）は、2週間と3週間に分け、2週間は法人外施設、3週間は法人内施設で実施し、統一教育を目的とした施設実習かつ法人内施設での実習は、教員からの指導を密にした教育を行い、学生の資質向上と国家試験合格にも繋がったと考えられ、例年、施設実習結果が要因で、卒業延期となる学生あったが、本年度は全員で卒業を迎えることができた。

ボランティアやレクリエーションなどの校外活動は、新型コロナウイルスの影響により年々減少しており、加えて、本校の感染対策として、実習や試験を最優先したため、ほぼ参加できていない。次年度は、社会の感染状況を見ながら、参加する機会を広げ、学生の思考力・表現力の向上を目指したい。

学生の状況については、1年生で1名退学者があり、退学理由が体調面であったため、休学も含め、ご家族と面談を重ねたが、今後と体調を優先し残念ながら退学となった。

学生自治会活動は、感染対策を講じながら年度初めと終わりに実施し、1、2年生が交流する機会を設けることができた。

学生募集活動は、高知県内を中心に延べ183校の高校訪問を行い、体験入学への参加周知や学校説明等の周知を行った結果、24名の令和5年度入学生を迎えることができた。進路相談会の一つである学校説明会は、高知県内の高等学校や高知県内のホテル等で開催され、22か所へ参加し、延べ102名の高校生に説明を行った。また、福祉教育授業については、高知県内6校において述べ13回実施した。

総務については、経費削減に努め、年度内の必要物品を検討し、職員全員が意識をもって取り組むことができた。

令和4年度 学生数の動向

学年 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	24	24

2年生	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

卒業生就職状況

種 別	人数
社会福祉法人	8
医療法人	7
組合立・町立	2
株式会社	3
県外	0
未就職	0
留年	0
計	20

2 介護実務者研修

令和4年度は昨年に比べて受講者が3名減となり、23名が受講し21名が研修を修了した。

3 高校生就職支援事業（介護初任者研修）

本年度も高知県より委託を受け、本事業を実施した。訪問型研修として春野高校・城山高校の2校、本校にて行う集合型研修の計3回を実施する。計23名が受講し22名が修了し、高校生就職支援事業より本校進学者は2名あった。